

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271100719		
法人名	株式会社ティ・アイ・サポート		
事業所名	グループホーム「ふるさと・木更津」 1F・ユニット楕		
所在地	千葉県木更津市太田4-1-21		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港14-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切にして、健康で元気な暮らしを他の入居者とケアスタッフと一緒に楽しく過ごして行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長やスタッフはホームの理念である「安心、自信、笑顔」を実現するため、方針である「思考と試行」を繰り返して、試行錯誤しながらケアを実践し、毎月の介護計画の見直しに繋げている。また、入居者や家族の安心、笑顔を大事にして、入居者もスタッフも名前でも声掛けするなど、和気あいあいの家庭的な雰囲気が感じられるホームである。ホームの外壁には「ふるさと・木更津」と大きく書かれており、分かりやすい。静かな住宅街にあり、中庭のあるコの字形で日当たりが良いホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価(1階 椿ユニット) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念・「社会との環境が良好に保たれる環境を築き、安心自身笑顔あふれるその人らしい充実した生活を送って頂けるよう、思考と試行を繰り返す」・玄関先に掲げ意識しながら地域密着した外出援助を中心に実践している。	入居者もスタッフも名前で呼び合い仲間意識を持ち合う関係作り、極力オムツをしない工夫等、利用者の笑顔を得られるようにとサービスを試行錯誤・工夫し、理念の“思考と試行”を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常挨拶を交わしたり、地域の清掃お祭りに参加。推進会議に2地区班長さん出席して頂き交流している。	外出時は地域の人たちと挨拶を交わしコミュニケーションしている。市のゴミゼロ運動、盆踊りやお祭りに入居者も職員も参加している。地域の中学校2校から生徒が福祉体験学習に来たりと地域とのつながりを大切に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出援助・買い物散歩などを通して、地域の中での生活が出来る事を、付添見守りする事で理解され、笑顔で答えて下さっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事やエピソードを話す、また、3ヶ月間の近況報告など報告している。会議に参加された方からの情報も取り入れながら取り組んでいる。	年4回の運営推進会議ではホームの運営状況、行事、入居者の健康状態、入退去状況などについて説明し、市からは他のグループホーム、介護技術などの話しがでる。家族からも希望がでることもあり、必要があればすぐ検討し、介護サービス計画に反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度入居者の方の相談などでホームに市の相談員さんにお越し頂くほか、推進会議にも参加して頂いている。	代表者は市の介護保険運営協議会の委員をしている。一部の入居者は市福祉課との連絡がある。定期的に市の相談員が来訪し、必要なことは介護サービス計画に反映しケアに繋げている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は交代で高齢者権利擁護身体拘束廃止研修に参加し、理解して援助に努めている。施錠については、職員共通認識で必要な時のみとし少しでも拘束しない援助を考えている。	外出願望の強い人については見守りで対応し、スタッフが多忙な時間帯のみ2階の居室間の外の渡り廊下を施錠している。職員は毎年行われる千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を順番に受講している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ここホームでの虐待は無い、職員は高齢者虐待防止研修にも交代に参加し正しい知識を持っている入居者への言葉かけも注意している。		

グループホーム「ふるさと・木更津」 自己評価 (1階梯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、夫々が独自に福祉について学んでいる、成年後見制度については今回、1件ご家族が利用されている。これを機会に必要性を話し合って行きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、ご家族へ十分に説明されている、また、3ヶ月に一度の割合にケアプランを実施し、状況説明やご家族からの意見やご希望にも添えるよう機会を設けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見・要望・質問などを受け入れている、クレームがあれば、回覧し職員の共通認識を持ち対応している。月1回の受診の際にも職員がご家族と状況をお話することで、話しやすい雰囲気を作っている。	入居者はスタッフに話しにくいことを市の相談員には話している。また、月に1回かかりつけ医には家族が付き添い通院するので、その時を捉えて日頃の状態や状況を伝え、意見を聞く場を設けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の運営・ケアに必要な意見を代表者の出席の会議の中で出している、必要事項は実施されたり検討される事項もある。	代表者、リーダー、スタッフの全員でケース会議、業務会議を毎月行い、個々のサービスの評価・見直しやホーム全体のことを協議している。何でも言える雰囲気、意見は運営に反映させるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通し職員の状況を把握している、職員との就業についての話を出す機会も少なく、何でも話が出来る場を作る必要がある。職員同士は休憩室を作り交流を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県福祉協議会・前項GH協会の研修や講習を利用している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ交流はありませんが、今後機会があれば良いと思われます。職員夫々が福祉のボランティアに参加しています。		

グループホーム「ふるさと・木更津」自己評価(1階梯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度2月に入居された方1名について、ご本人ご家族に意見をお聞きしながら、援助計画に日誌の援助を反映、日常ケアについて記入、来所の際に見ていただき信頼関係が築けている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況を情報収集し、ホームでの生活当初2週間・集中し見守りする中で、出来る援助を細かく見極めアセスメント表に記入し説明している。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域密着を基本に、散髪援助や他家族が対応できない時に必要とする支援を行っている。他施設サービスについては利用していない。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や生活援助を共にし過しながら、常にサポートする立場である事を念頭に置き、少しでもご本人の意見や行動を理解共感するよう努力している。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームであったことや希望をご家族に伝えご本人に必要な支援をお願いしている。対応して頂けている家族が大半ではありますが、難しいご家族もある。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では、ご親戚の方が来所されている他、介護度が進んでしまった為、馴染みの方が来られても理解が難しく疎遠となってしまっている。	入居者の記憶力、判断力が低下してきているが、職員が手伝い年賀状を家族に出している。スタッフは積極的に声掛けして昔のことを話題にするなど努力してる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の個性・行動を理解し穏やかに過せるように、スタッフが間に入って話をしたり、関係が上手く保たれるよう配慮している。			

グループホーム「ふるさと・木更津」 自己評価 (1階梯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、その時の状況に応じて、必要な関係を維持している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に暮らしの方の希望を聞いている、ホームの生活の上で可能であれば本人と相談し意向に添うようにしている。	日常会話や関わりの中で得た新しい発見や気づき等は申し送り帳やケース記録に記入し、それを介護計画に繋げるようにしている。困難な場合でもその方の表情や仕草で把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴・思考・サービス利用経過を伺いそれをもとにケアを展開している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夫々の生活リズムで毎日を過されている、その日の言動・身体状況(バイタル測定2回)様子を観察し職員同士申し送り入居者の援助に役立てている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回サービス計画書を作成するため会議を設けている、援助に対し評価し問題点を話し合い協議しているご家族にも評価と計画を郵送し確認していただいている。	定期的にケース会議を開き1回の会議で4～5人のケース検討を行うと共に居室担当者から意見を聞き介護計画に反映させている。目標の評価を毎月行い、計画の見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日業務日誌・ケース記録を記入している、水分量排泄記録バイタル測定など個別に記入し、それを元に職員交代時申し送り業務している、会議も記録を参考としている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以来があれば、ご本人ご家族の要求に答え、その状況に応じて柔軟なサービスを心掛けている。		

グループホーム「ふるさと・木更津」自己評価(1階梯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアさんに来て頂き生活援助を支援して頂いている、又、中学生の体験学習などの協力施設になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夫々の掛かりつけ医を主に基本はご家族に受診に行き、緊急の際には連絡し早急な対応を取っている、ホームとしての協力機関も受診するなどして、連携をとっている。	本人や家族の意向に沿った従来からのかかりつけ医への受診を支援している。付き添いは家族の協力を得ている。受診時の情報は申し送りノートに記入し、全職員で共有することを徹底している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の常勤は現在不在であるが、職員が入居者の記録と申し送り様子の把握をし、リーダーに報告し早めの受診を支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に認知症では付き添い無しでは出来ない医療機関もあり、入居者のご家族医療機関との話し合いにより適切な入・退院を話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には具体的な話まで行っていないが、ホームとして出来る援助を説明しご理解いただいている。重度化された場合、都度話し合い最善の努力支援をしたい。	今までに終末期ケアの経験はない。入居時に重度化した場合のホーム側の対応を家族に説明し納得の上契約している。今後、体制を整えば本人にとっての最善策を考え、家族が希望した場合には終末期ケアを行う意向である。	ホームは重度化した場合や看取りの指針を早い段階で整備し、家族の意向に沿える支援の実現が期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は救急医療を学ぶなどし、緊急の対応に備えている、消防訓練も実施された。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症という状況で、災害地震に対応が困難であると思われるが、職員の外に家族の応援地域の応援体制を検討中である。	いざという時には慌てず対応できるよう日頃の訓練が必要であるが、今年度は2回の消防訓練のうち1回は水消火器の訓練を入居者と職員で行った。今後は場面を想定した訓練や近隣への協力体制についても検討している。	

グループホーム「ふるさと・木更津」自己評価(1階梯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語、常に話を傾聴し否定は避ける、申し送り時インチャルトークにしている。スピーチロックをしない様気をつけている。	リーダーは、入居者への声かけで気が付いたところは職員に注意を促しているが、まだ職員によって差がある部分も見受けられる。	入居者のプライバシーを保護する概念を全職員に周知させるためにも、マニュアルの整備や研修も必要と思われる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しているが、必ずしも全ての希望を叶えておらず、選択して頂くなど説明・納得したうえで、支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に対応できるだけの人員配置は無いため、日を設けて個別の対応が出来る様になっている。ケース日		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室を援助又季節に合わせ衣類もご家族と相談の上購入している。お化粧品道具を用意し利用も可、夫々のオシャレを楽しんでいると思う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しを援助し同行おこずかいの中から好きなものを購入するなど楽しみとしている。出来る方には調理にも参加していただき配膳もして下さる、外食の機会もあり好きなものを選んで頂き楽しんでいる。	毎日の献立の決定や食材の買い物は入居者と共に楽しみながら行っている。また、車椅子利用の入居者にも優しく低めに作られたシンクがあり、食事の下準備や配膳では入居者の力が発揮されている。また外食の機会もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分チェックをし、少ない方には声かけし、勤めている、カロリー計算はされていないが、減塩調味料使用や油も控えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食援助は難しいが、朝・夕は必ず声かけしおこなっている。月1回は自歯がある方の歯科援助も行っている。		

グループホーム「ふるさと・木更津」自己評価(1階楯ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックが必要な方は記入している。夫々の方に合わせ排泄パターンを考え援助している。オムツの額についてもご家族と相談して了解を得ている。	入居者一人ひとりの排泄リズムに合わせて声かけをしている。また、入居者がおむつを使用する時間帯、外す時間帯を把握したことで良い方向に変わった人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記入をする事で予防も出来ている、また、自立の方も時々便秘の訴えを傾聴し対応している。毎朝、バナナ・自家製ヨーグルトをお出ししている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日に全員の入浴は出来ないの、交代で少なくとも2日に回は入れるよう声かけし援助している。本人の希望も聞き入れている。	入居者の希望に沿った入浴の支援をしている。拒否する人には入浴時間を書いた紙をテーブルに置くなど、本人が自分から入りたいと思うようにする工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も居眠りをされる方は、心地よい場所で(小上がり・マッサージ機・居室)休息時間を作り休んでいただいている。お薬を使用されている方もいますが、必要最低限にし心地よい疲れで安眠を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診の際に必ず変更が無い確認し、服薬記入その日の状況など変化を見逃さないよう気を配っている。月1回は、様子を医療機関に報告し薬処方に参考にさせていただいている、職員がいつでも確認できるところにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみを捜し援助している。外出・手工芸・レクリエーションなど、お酒をなども楽しみとして飲んでいただいている方もあります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分で散歩を希望される方は、なるべく希望に添うようにしている、普段いけない場所はご家族の協力を得て願います。	天気の良い日は毎日散歩をしている。また、食材の買い出しや個々の買い物などで外出の機会を作り、できる限り、外出の機会が均等になるよう支援している。	

グループホーム「ふるさと・木更津」自己評価(1階楕ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お1人ずつおこずかいがあります、外出時にお渡している。管理できる方は個人でそうでない方はホーム管理です。見守りの中買い物されています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用できる方1名、手紙を書いている方1名と、個々のあった支援をしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に観葉植物・居室内にもお好きな方あり、作品を飾ったりと明るい楽しい雰囲気作りをしている。	入居者が集まるフロアにはダイニングテーブルのほか、程良い高さの畳のコーナーがあり、腰かけて話をする人たちも見られた。また、居室の入り口にはそれぞれ手作りリースが飾られ季節を感じさせた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	マッサージ機を置いて使用していただいたり、昼寝用の長座布団があったり、限られた中で居心地良い場所作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族とご本人の意向により馴染みのものやお好きなものを置いて、居心地よい居場所を作っていたりしている。ホーム内にはソファーマッサージ機など置きゆくり出来るスペースがある。	各居室は掃除も行き届き、日当たりがよく清潔である。好みに洋間を和室に改装した部屋もある。また、勤務先の感謝状等、思いでの品が飾られたり、各々が寛げる空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	庭や花壇には植物の好きな方の園芸コーナー・歌の好きな方の傍にはラジカセ・雑誌や新聞なども提供し自由に見ていただける様工夫している。		